

ヤング・YOUNG・やんぐ・ヤング・YOUNG

三都市を越えて描く佐賀の未来

かわそえ
川副 太郎

筆者のプロフィール

出身地 伊万里市
出身校 弘学館高等学校
大学 慶應義塾大学経済
学部4年

どまらない。培ったエンジニアリングの技術とビジネスの視点を掛け合わせ、伊万里鍋島焼という伝統産業全体をアップデートする。そして伊万里市、ひいては佐賀県全体を、再び熱気あふれる豊かな地へと栄えさせたい。東京のキャンパスで、大阪のオフィスで、私の胸の中には常にあの窯の炎が燃えている。この熱量とテクノロジーを両輪に、私は佐賀の新たな未来を実装していく。

佐賀県伊万里市大川内山。私
の原風景には、豊かな自然と窯
から伝わる圧倒的な熱気があ
る。実家は伊万里鍋島焼の窯元
だ。幼い頃、印象に残っている
のは窯と向き合う父の背中だっ
た。燃え盛る炎の前に、父はこ
まめな温度管理を繰り返し、

今、私は地元を離れ、慶應義
塾大学で学ぶ傍ら大阪のスター
トアップ企業でソフトウェアエ
ンジニアとして働いている。パ
ソコン一つで世界中と繋がり、
コードを書いてプログラムを組
み上げていく毎日だ。圧倒的な
スピードで技術が進化するIT
業界の最前線に身を置き、佐賀・
東京・大阪という三つの都市を
またぐ生活は、私に全く新しい
視座を与えてくれた。

炎を相手にしながらも、そ
こには緻密な計算と決して妥協
を許さない忍耐があった。美し
い磁器は偶然の産物などではな
く、泥臭いまでの徹底した管理
と職人の執念から生まれるのだ
と、子供心に驚きとともに刻み
込まれた。

一見すると、物理的な伝統工
芸とデジタルなソフトウェア開
発は対極にあるように思えるか
もしれない。しかし、開発業務と
向き合う中で、私はある確信を
抱くようになった。それは、両
者の本質は全く同じだというこ
とだ。プログラミングも伝統工
芸も、先人たちが長い時間をか

私が東京や大阪で最先端の技
術とビジネスのスピード感に触
れているのは、決して故郷を離
れるためではない。すべては、
地元に戻元するための武器を手
に入れるためだ。伝統は、守り
に入るだけではやがて衰退して
しまう。テクノロジーという新
たな火を吹き込むことで、伝統
は自らの力でさらに力強く燃え
上がるはずだ。

私の目標は、実家の窯元にと